

まちづくり ニュース

ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

125号
2010年10月20日

ときわ台の景観を守る会
ときわ台まちづくり委員会
代表 鈴木博之 近藤洋子
事務局 島田晴子 tel・fax 3960-3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 裁判官が見にきました！

10月18日(月)午後3時半、裁判官3人が常盤台を実際に見に来ました。道路の狭さや駅前の現況を住民がビデオを撮るのに立ち会いました。

裁判長を含め3人が揃って現場に足を向けるのは稀なことだそうです。

幸い天気も良く、住民や弁護士の説明を聞きながら、藤和マンションの週辺を歩き、約1時間ほどで帰って行きました。板橋区側からも5人の弁護士が立会い、総勢20人ぐらいの団がぞろぞろ街を歩いたので、出会った人は何事かと思ったことでしょう。

* 私たちが説明した主なポイント

- 1、 周辺の道は4m未満のところがある道で、あのようなボリュームの集合住宅が建つような環境ではないこと。
- 2、 現に突き当たりの丁字路に設置したミラーは大型車によって壊されていること。
- 3、 安全条例の「6m以上の幅の道路に10m以上接道」という条件を、数値を満たすだけで、実態の道幅は4mであること。
- 4、 常盤台の道は放射状にできているので、駅に向かうと、いやおう無しに醜い高層マンションの裏側が目に入ること。

10分ほど時間があるということで、公園周辺を歩き、常盤台の住宅地の一端を見てもらいました。

当たり前のことですが、裁判官も普通の人間なんだ、というのが感想です。裁判長は穏やかな人格者のようだし、左陪席・右陪席も将来の日本を託せそうな頼もしい若者に見えました。こういう人たちがどうして血の通わない非常識な判決を出すのかわかりません。

前置主義で長引いた挙句、建物が完成してしまったから棄却という、日本建築センターの一審判決に対して、8月4日付けで高裁へ控訴した分は、

11月1日(月)午後1時45分～812号法廷となりました。

今回は証人尋問です。
原告の住民が証人に立ちます。

10月27日(水) 3時30分
於 522号法廷

双方の弁護士から質問があり、証人の方は大変ですが、傍聴する方としては、いつもの書類のやり取りや日程のやりくりだけという法廷と違って、ドラマがあります。傍聴に行きましょう。

○ 景観まちづくり検討会 (第4回)

10月3日(日)10時、介護センター2階で、しゃれ街協議会主催の景観まちづくり検討会がワークショップの形で行われました。町会からも役員が参加、まちづくりを研究する学生たちの協力で、楽しく進行了ました。

それに先立ち、10月1日(金)19時、ギャラリー服部で、まちづくり委員会主催で景観法の勉強会が行われました。講師は千葉大学の秋田典子さんで、多くの自治体と景観法による条例づくりをしている経験を基に、景観計画を解説して下さい、目からうろこの思いでした。

また、京都から今回も龍谷大学牛尾洋也さんと学生8人が参加しましたが、全国と東京23区の聞き取り調査の結果など、惜しみなく情報提供してくれました。

今回は11月14日(日)10時から
於 介護センター2階

今からでも遅くありませんので、ぜひご参加ください。

写真展予告

五月のセピア色の写真展に引き続き、昔(と)いつても昭和四十年代)の常盤台の街並みを中心とした写真展を予定しています。古い写真がありましたらご提供ください。

早ければ十一月下旬、遅くとも来年はじめには実現したいと思っています。

ない方がいいな

(あったらいいな、の逆です)

・電柱

二〇年前のアンケート調査でも、電柱の撤去は常盤台住民の願いでした。こんなにひどい電柱林立を無策のまま放置している先進国というのは謎です。電線もくもの巣状になってきました。代わりに高木が植えられていたらもつと環境がよくなるのに。

・広告

広告や看板は至る所で日本を汚くしています。常盤台駅舎もひどい状態で、かわいそうな位です。東上線に限らず電車の中の広告が過剰で、肝心の路線案内など片隅に追いやられています。

そこに店があるわけでもないのに大きな看板を出して広告するのは止めた方が良いでしょう。大げさに広告しなくても、良い店は繁盛するものです。上板橋の石田屋はいつも行列ができていますが、どこに宣伝しているのでしょうか？

「ナチュラル・ステップ」再刊

— スウェーデンの取り組み —

北欧諸国のアメリカ型とは違う先進性に学ぼうとする人が多くなった。マネーゲームに振り回され、資本主義の負の部分も見えてきた私たちにとって、金もたらずのではない豊かさというものに目を向け始めたのは良いことだと思う。

「ナチュラル・ステップ」というこの本の著者カール・ヘンリク・ロベールは一九四七年生まれの医学者で、ガンや白血病の研究に取り組む。ナチュラル・ステップは完全な循環型の社会となるための指針ともいえるべき考えで、スウェーデンは、循環社会という理想を実現できる唯一の国家である、という自負のもとに、国家・企業を挙げてこの壮大な実験に取り組んでいる。

この大切な地球という環境を、なんとかして守りたいという考えは、自然を大事にしてきた私たち日本人にも、十分共感できるだろう。地球温暖化の不気味な変化をひしひしと感じる人であれば尚更である。

実は「ナチュラル・ステップ」は一九九六年に日本でも翻訳されていたが、今まで大きな反響を呼んだわけでもなかった。今回ある篤志家の協力で再刊されたのだが、その陰には「景観ネット」の大西信也さんの努力があった。「景観ネット」はこの本に紹介されている環境保護の思想をぜひ知って欲しいとよびかけている。「新評論」発行 二六〇〇円

常盤台公園のはなづくり

十五日の作業は、公園そばのクルドサツクの雑草を取りました。ヤブカラシなどが植栽をすっぽり覆っていて、剥がすのが大変でした。ここは目立つ場所なので、ごみ置き場の移動などを工夫するとすっきりすると思います。

異常気象のせいで、ヒマワリはまだ咲いているし、ダリアや彼岸花も三週間ぐらいの狂いが生じています。十月なのにソメイヨシノが咲いてしまった所があるとか。猛暑で葉が落ち、葉から出る開花を抑える物質の効き目が低下したのだそうです。

十一月始めに冬越しのパンジーなどの苗を区から貰うと同時に、私たちのチューリップを植え付けます。毎年色々変化を付けようとしているのですが、今年は去年の球根の生き残り次第で、構成を考えます。掘り上げて保存しても、なかなかうまく夏越しをしてくれません。どなたかコツがありましたらお教えください。

ヤブランの紫の穂が群生していて、とてもきれいです。ホトトギスが蕾を付けています。地味な花ですが、これもまとまって咲くとなかなか見事です。

駅前の花壇の花は植えっぱなしで、そろそろ枯れるものも出ています。気になりませんが私たちだけでは無理ですね・・・

定例会十一月十三日(土) 七時

「ギャラリー服部」にて